

HonoBonoOsechi



12月のほのぼのクラブはおせち料理教室です。
 おせち料理とは、御節料理と書き、節日に作られる料理のことで、節日のうち最も重要なのが正月であることから、正月料理を指すようになったそうです。
 今回のほのぼのクラブでは簡単な2～3種類を皆さんと一緒に作ります。御節料理を作って2016年の良いスタートを迎えましょう。

時：2015年12月13日（日）14：00

場所：トロント仏教会キッチン

費用：ドネイションのみ



愛 世間では愛は良いものとして語られます。しかし仏教では「一切苦悩を説くに愛を根本と為す」と『涅槃経』にあるように、愛は迷いや貪りの根源となる悪の心の働きをいいます。のどが渴いたときに水を欲しがる様な本能的な欲望で、貪り執着する根本的な煩惱です。愛欲、愛着、渴愛などです。一方、このように煩惱に汚された染汚愛ではなく、「和顔愛語」のように仏や菩薩が衆生を哀憐する法愛もあります。この場合には「慈悲」と呼ぶことが多いようです。

日々の仏教用語

ホリデースケジュールのご案内
 十二月二十四日（木）事務所は午後からお休みです
 二十五日（金）事務所はお休みです
 二十六日（土）事務所はお休みです
 二十七日（日）午前十一時 常例法座
 二十八日（月）事務所はお休みです
 三十一日（木）午後二時 除夜会
 午後十一時三十分 除夜の鐘つき
 二〇一六年
 一月 一日（金）午前十一時 元旦会
 午前十時、午後一時 初詣
 三日（日）午前十一時 祥月法要（英語）
 午後一時 祥月法要（日本語）



成道会

十二月二十日(日)

午前十一時より

六年にわたる苦行の末に、この方法では悟りにいたることが出来ないと感じたシッダルサは、スジャータの乳粥の供養を受け入れ、尼連禪河で体を清めた後、悟りを開くまではその場を離れないという強い誓いのもとで菩提樹の木の下で瞑想に入られました。

十二月八日の暁、ついに悟りを開き、釈迦牟尼仏陀(真理を覚える者の意)となれました。



毎月第1・3日曜はお寺でHAVE A FUN!!

10時半からのキッズサービスに引き続き
楽しいクラスやアクティビティを通して
アミダさまのお心を学びましょう

☆クラス予定表☆

12月20日(日)

1月3日(日)

1月17日(日)

お子さんをお持ちの方はぜひご参加下さい

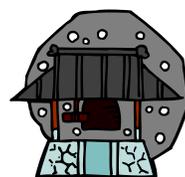
年末年始の行事予定

除夜会

十二月三十一日(木) 午後二時

お寺にて

・この一年をおかげさまで無事に過ごさせて
いただいた事を阿弥陀様にお礼申し上げます



除夜の鐘

十二月三十一日(木) 午後十一時三十分

※オンタリオプレイス内テンプルベルにて

・先着順でお餅を無料配布します

・お一人一回ずつ鐘を叩いていただけます

元旦会 (初詣)

一月一日(金) 午前十時、午前十一時、

午後一時

・新しい年を阿弥陀様の前でお迎えしましょう

ご家族ご友人とお誘い合わせてお参り下さい

※ボランティア募集のお願い

一月一日の元旦会にてボランティアいただける方が
おられましたら、お寺の事務所までお知らせ下さい
主な内容はお茶とお菓子の用意、お参りに来られた方
へのお寺の建物の案内などをしていただきます



一切女人章の大意

浄土には往生させていただくことを大切に思い、
み仏の教えを尊く思う心がある女性は、
自力にたよることをやめ、
阿弥陀如来を深く信じて、
後生をおたすけくださいと一心にたのみ、
おまかせするならば、
浄土に往生することは疑いありません。

このように心得た後は、
如来がお救いくださることの
ありがたさ、尊さを思つて、
寝てもさめても
南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と
念仏するばかりです。
これを信心決定した念仏者というのです。

(五帖第十七通)

年忌(年回)法要

次の年にご往生された方は年忌法要が回ってまいります
個別での法事をご希望の場合はお寺までご連絡下さい

一周忌(二〇一四年)	三回忌(二〇一三年)
七回忌(二〇〇九年)	十三回忌(二〇〇三年)
十七回忌(一九九九年)	二十三回忌(一九九三年)
二十五回忌(一九九一年)	二十七回忌(一九八九年)
三十三回忌(一九八三年)	五十回忌(一九六六年)



お餅つき&購入申し込み

販売・・・十二月二十九日(火)

午後十二時～三時半まで

値段・・・小もち(十二個入り) 四ドル

お鏡餅 四ドル五十セント

※佛心英語版十九ページに申込用紙がありますので、
十二月二十一日(月)までにお寺までお申し込み下さい
当日は九時よりお餅つきを始めますので、
皆さんのお手伝いをよろしくお願いします



す。様々な宗教からの宗教家八名が話し手として呼ばれており、参加者五〇〇名あまり、ほとんどが会場をお借りしているシュリ、サティヤ、サイババの信徒でしたが、その方々の前で日本語で、次いで英語でこの歌を紹介しました。私が両手を合わせ合掌したとき、そこにいた五〇〇名あまりの列席者が共に合掌しているのを見て、「すごい！見渡す限りの合掌だ！」と驚嘆したのです。」

『久遠の御親の音がする』
(これはもちろん私にとっては阿弥陀様です)

『雨も嵐もなんのその』
(阿弥陀様は常に我々を抱き、喜びのときも悲しみのときも、どこにいようと、いつだってその御慈悲は我々を包んでいます。領解文では「たのお一念のとき、往生一定御たすけ治定とそんじ、このうえの称名は、ご恩報謝とぞんじ、よろこびもうしそろう」つまり、如来におまかせする信心が起ったとき、往生成仏する身と決定し、如来は必ず救いおとってくださると承知して、これより後の念仏は、如来のご恩に報いる行であると喜びのうちに称え申しております*、と書かれています。

『一人一人の宿業に 泣いた涙の下からも』
(これは、我々の性格や経験が現在の不完全な我々の存在につながっていることを認めているものです。誰もが他人との関わり合いに影響するような過去や悩みを持ち合わせています。ときには一緒に住んでいる人々、共に働いている人々を傷つけることもありま

す。)
『にっこり笑う幸がある』
(ここに浄土真宗を信仰するものの奇跡があります。「信心」を体験し、我が身を不完全であると認めたくえで、阿弥陀様が我々をそのままに受け入れてくださっていることを知っている。もちろんよりよい人間であろうと努めます。ですが、もしつまずいたり間違え

てしまっても、ありのままに受け入れられているのです。その間にも、一緒に生活をし、働く人々を傷つけるようなことがなくなるよう、少しずつ変わっていくのです。すばらしい。
仏教伝道協会カレンダーの三十一日の言葉には「和顔愛語」と叫ばれています。まさに人生教訓ですね。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏
ミニスターズアシスタント デニス・マドコロ

*1 <http://houkizan.sakura.ne.jp/ryougenon.html>

敬 弔

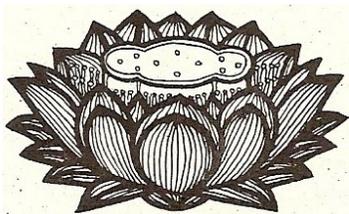
次の方が御往生されました
生前のご苦勞を偲び、
謹んで敬弔の意を表します。

あぼ たづこ様 九十八歳 十一月十五日往生

たけの ちとせ様 八十五歳 十一月十日往生

塚田 巖 様 九十六歳 十一月八日往生

鈴木 修 様 七十一歳 十一月二十二日往生



して思いやり、慈悲のある集団ということです。また仏教でいう「不妄語戒」（嘘をついてはならないという戒め）つまり真の人間関係というのは真実の上にごそ築かれるものですから、このような家族や仲間の間では嘘をつくことなく真実を語り合う集団であるべきです。

もし、私達の中に信心を装って行動して、皆を傷つける者がいれば經典に説かれているように地獄のような世界に行かなくてはなりません。

泉先生は法話の中でお寺は精神的な避難所と書かれています。が、お釈迦様の悟りの世界からの智慧と慈悲の心を聞かせていたただ中で、私達は、この世の無常さを認識し、生かされている命に感謝する時を共に過ごしたいものです。

先日、母がまた、日本から参りました。今回は私の部屋の掃除だけでなくお陰様でナイアガラの滝にも行けたとトロントの紅葉を楽しんで帰りました。トロントに向かう機中で、また母はおしゃべりをしていました。隣の席のご夫婦は十代のトロントの英語学校に通われる息子さんがいらっしやるということでお互い心配な息子に何をお土産に持っていか話題にしていたようです。ご両親三日間しか仕事のため滞在できないということ、十代の息子さんの事を心配なさっていたそうです。母はトロントのお寺を訪れることをお勧めしました。私が僧侶であること、私は新米で全然頼り甲斐がないが、お寺には、気持ちの温かい人たちが沢山いてきつと息子さんの為になると言っていたそうです。そんな母たちのおしゃべりを聞いていた後部の席の方もこの話に加わりたかったということです。娘さんがカナダの男性と結婚して、遠く離れているので心配でマラソン大会を理由にこの機に搭乗なさっていたのです。お寺の温かさに心を寄せる人たちはこのトロントにも沢山いらっしやるのです。

私達は思いやりをもって新しい人たちをサンガに迎え入れましょう。一人でも多くの方がお寺の温かい空気に包まれて、仏様の智慧に導かれますようゲメインシャフトの組織を大切にしましょう。

合掌 駐在開教使 遠藤竜平

浄土の旅路



私の大好きな浄土真宗の歌に「浄土の旅路」というものがあります。以前、牧野先生がトロントに短期滞在されていた時に毎夕のご講話の前に歌われていたものです。私も最近法話の前にこれを日本語で歌い、その後英語の訳を読みあげるようにしています。

短い楽曲ですが、歌っていると様々なイメージが浮かんできます。皆さまは私とまったく違った感想や解釈をお持ちかもしれません。ではないかと思えます。私のイメージはこんな感じでした。

曲の出だしは静かです：私はまず鐘を二度鳴らし、その音が消えてゆくまで待ってから歌い始めます。

『諸行無常の鐘の音に』

（薄れゆく鐘の音は私にとって、無常、つまり我々はこの世にほんの短い間しか存在していない、ということの聴覚的な実感です）

『夢の浮世と目が覚めて』

（これは私にとって、信心、つまり、阿弥陀様のご慈悲に身を任せた瞬間の体験です。それは夜中に寝ようとんでも寝返りをうっている時に、ついに力を抜き、身を任せ、念仏を唱えた時に、ごくたまにですが暖かい光を感じ、安らかな眠りにつく瞬間に感じることもあります。聖人一流章の御文章にはこう書かれています「一心に弥陀に帰命すれば、不可思議の願力として、仏の方より往生は治定せしめたまう」

『合わす両手のこの胸に』

（2014年10月に開催された"Unity of Faith Conference"（信心の結束のための会議）にてこの歌を披露した時のことを思い出しま

佛心

二〇一五年十二月号
浄土真宗
トロント本願寺

お寺



先日十一月十四日にバザーも終わりましたね。皆様大変お疲れ様でした。それこそ何日も朝から沢山のメンバーが大忙しで準備をして成し遂げたイベントです。私はラフッル宝くじを作ったり、小豆の鍋をかき混ぜたり、ごはんやチャーマンを冷ましたり、いなり寿司を作ったり、といろいろ手伝いました。バザーというイベントに集まった人数は主催する側も含め一体何人だったでしょう。

私はつくづく思いました。お寺の存在ってすごいなあとです。私は僧侶ですのでお寺が私の日常の中心ですが、皆様にとってお寺の存在とはどのようなものでしょうか？

日常生活から貴重な時間を割いて何かを求め、また何かを与えるようと集まってくださる場所です。

私の話をこうして読んで下さる皆様はそれぞれ、年齢は無論のこと、異なった生活環境、経験をお持ちでいらっしゃいます。また、信心のある方、持ちたいと思っっている方、持っている方に振舞っている方、また全く関心がない方、と様々でいらっしゃると思います。それこそ様々な機会を得て、また様々な動機からお寺と縁を持ち、集合しています。私はあえて結論にすべき私のお寺に対する気持ちをお述したいと思えます。

何はともかく、お寺の空気に包み込まれる事は大切なことだということだと思います。お寺は第一義的に法、ダルマを聞きに集まる場所です。学校でもなければ会社でもありません。当然ダルマは道徳ではありません。生活上の規則でも法律でもありません。

智慧のない私達に真理とは何か、私達に与えられた命とは何かを伝える仏陀の教えです。

道徳と宗教は一見混同してしまうかもしれませんが、間違えない

下さい。道徳は社会的存在としての人間の間の共存の規範、原理であり、人間の考えた倫理の法則です。あくまで世俗の中の倫理です。

しかしダルマを聞くことはお釈迦様の悟られた悟りの世界からの言葉を聞かせていただくということなのです。、、、

ドイツの社会学者のテンニース（1855～1936）は人間の作る組織集団を二つに分けました。ドイツ語でゲマインシャフトとゲゼルシャフトです。

ゲマインシャフトとは共同組織を指します。典型的な例を挙げれば血縁集団とか家族です。

また、後者のゲゼルシャフトとは、利益組織で例を挙げれば株式会社などです。

ではお寺はどちらに属するのでしょうか。私は前者であるべきと断言したいです。

今までここにお寺が存続しているのは一重にメンバーの皆様の信心のお陰です。仏教に対して信心があるということはお釈迦様が悟られた内容、説かれた教えを受け入れたい、悟りの智慧を頂きたいという心があるということだと思います。

私は個人的に、信心を持ちたいと切に願っています。それは取りも直さず、自分の認識範囲は迷いの世界からの限られた見解、知見であると認め、お釈迦様が悟られた世界から示してくださいました諸行無常の教え、縁起の有様、そして物事をありのままに見る智慧を真摯に受け止めたいと願っているということです。

お寺の本来に信心のある方々は、皆様、仏様の示された法、ダルマをを分かりたいと願う人であり、生かされている命に感謝しながら自分の周囲の命に対しても敬意を持っていらっしゃると思います。親鸞聖人は言っておられます。

一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり。（歎異抄）

いのちのつながりを理解しようとする集団、いわばお寺は大きな血縁集団であり、家族と違っていいのではないのでしょうか。ゲマインシャフトの組織ですね。家族のような組織であれば、お互いに対